

公益社団法人 日本交通計画協会

平成26年度 第3回理事会議事録

1. 開催日時 平成27年6月22日（月）10時00分より11時30分まで

2. 開催場所 公益社団法人 日本交通計画協会
3階 A会議室
所在地：東京都文京区本郷3丁目23番1号

3. 理事現在数 7名
監事現在数 2名

4. 出席理事数 7名
出席監事数 1名
（出席理事）高橋洋二、中田康弘、岸井隆幸、川畑信之、飯塚義和、
石川次男、石川雅康
（出席監事）曾田祐司
（欠席監事）須原庸次

5. 開会

定刻に至り、事務局より開会が宣言され、本日の理事会は定款第32条第1項による定数を満たしたので、有効に成立したことが報告された。

代表理事 高橋洋二は定款第31条により、本理事会の議長を務めることとなった。

6. 議事録署名人の選出

議事に先立ち、定款第34条第2項により議事録署名人は次の3名となった。

- ・代表理事 高橋洋二
- ・代表理事 中田康弘
- ・監事 曾田祐司

7. 議題

本日の議題は次のとおりであることを確認した。

承認事項

- 第1号議案 平成27年度事業計画書の承認の件
- 第2号議案 平成27年度収支予算書の承認の件
- 第3号議案 入社希望者に対する入社承認の件

報告事項

- 報告第1 職務執行報告

8. 議事の経過及び議決の結果

承認事項として以下の議案について、承認を諮った。

第1号議案 平成27年度事業計画書の承認の件

議長は上記1議案につき説明を求めた。業務執行理事石川雅康は、別掲議案書により、平成27年度の事業実施方針と、それに基づく具体的な事業計画について説明をした。平成27年度は平成26年度とほぼ同様の事業を展開するものの、平成26年度からスタートさせることができたミニセミナーが成功を収めたことにより、セミナーは継続して行っていくとともに、今後の自主研究として重点的に取り組みたいテーマを3つ挙げた。本年度は、①将来を見据えた地域交通に関する研究、②これからの都市空間のあり方に関する研究、③都市交通システムの先進的技術に関する研究の3つについて説明し、これまでと同様に継続して行うことのできる自主研究を行いたい旨説明した。

同議案説明に対して、次の質疑応答があった。

(石川理事) 重点テーマについて、今年度新たに掲げられているが具体的に動いているのか。

(石川業務執行理事) まだ具体的には動き出していない。交通計画研究所の方で、大きなテーマを定めたということである。本日の理事会で承認いただけたら、明日以降さらに詳細を詰めていく段取りである。そのため、現在はこちらに掲げられているテーマと、想定される内容を記載している。

(高橋代表理事) ③都市交通システムの先進的技術に関する研究につ

いては、少しずつ進めているようだがいかがか。

(石川業務執行理事) こちらについては例年海外へ赴き、情報を仕入れてくることを毎年行っている。そのため今年についても案を練っているところである。内容としては主に交通系になると思うが、主にヨーロッパを中心として情報収集に当たることが考えられる。ライトレールや自転車、BRT(バス高速輸送システム)のようなシステムについて、見るのができたらと計画を考えている。

(岸井理事) 議案の2ページの本年度の重点テーマと、そのすぐ上に書かれている①～⑤までについての関連性はあるのか。

(石川業務執行理事) 上に書かれている①～⑤については、本当に大きなテーマであり、その中でさらに重点的に取り組んでみたいという内容を、重点テーマとして具体化して挙げている。重点テーマの①は上の方の②～④と関連しており、重点テーマの②は上の方の⑤と関連し重点テーマの③についてはあまねく広い分野で情報収集を行うということであるので、上の方の①～⑤の全てに該当するということである。

(岸井理事) 重点テーマの上に書かれている②～⑤、もしくは重点テーマ①～③については、何か組織を動かすと考えておられるのか。

(石川業務執行理事) こちらは研究部会とは切り離れた自主的な研究活動であるので、組織ではなくチームで重点テーマを自主研究していくことになる。

(高橋代表理事) 政策などに合わせてこのようなテーマで研究を行っていくことにもなる。

(川畑理事) 去年、自主研究の実施計画の中に⑥として、事業手法、事業評価手法及び社会実験実施方策の研究が掲げられていたが、今年はどうなるのか。

(石川業務執行理事) 全く取り組まないわけではないが、事業手法、事業評価手法については一通り終えたようなところはあ

る。ただし、社会実験実施については今までのような数では行わないかもしれないが、今後も実施されていくものではある。ただ、項目を立てるほどボリュームはないと考えられるため今年度は議案から外している。

(高橋代表理事) 新しい制度もでき、高齢化少子化が進んだまちづくりに取り組んでいくことになるので、去年の⑥のような一般論的なものは①～⑤に入っている。

(石川業務執行理事) 事業手法、事業評価は大切に常々行わなくてはならないが、去年挙げた⑥はどちらかというとな数年前、道路関係の予算の使い方で国会等で議論があったところである。そのため、事業の仕方を見直すという動きがあったため、このときは協会としても力を入れて取り組んだが、今はその動きも落ち着いてきている。事業手法などを単体の事業として行うというよりは、事業の中で事業手法や事業評価の観点を取り入れていっている。

(中田代表理事) 若干補足させていただくが、記載されていないから全くやらないというわけではない。具体的には、平成27年度に受託予定の事業の中に、バス停のバリアフリー縁石に関する社会実験がある。

(石川業務執行理事) もし、議題について全般的にアイデアや意見があれば、遠慮なくおっしゃっていただきたい。

議長は本議案につきこれを議場に諮ったところ、岸井理事より重点テーマ①に舟運も取り入れてはいかがか、また、重点テーマ②に交通結節点の研究も入れたらどうかという意見があり、全員岸井理事の提案に異議なく承認可決し、平成27年度事業計画書を承認した。

第2号議案 平成27年度収支予算書の承認の件

議長は上記1議案につき説明を求めた。事務局は、別掲議案書により平成27年度の収支予算について以下のように説明した。経常収益については、6億4千5百万円と予想しているが、これは交通計画研究所にお

いて来期の受託見込み額を計上し、事務局においても平成26年度の実績額を勘案して精査し計上した旨説明した。また、経常費用については、6億3千8百万円と予想しており、前年度に比べ費用が2千万円多くなっているが、去年から今年の4月にかけて若手を数名採用しており、人件費が増えた影響があることを説明した。さらに、事業費の委託費は前年度に比べ減ることになるが、職員増加による内部消化率の向上とJVによる受託の増加による影響があることを説明した。最終的な当期一般正味財産増減額は百万円となり、前年度予算に比べると大きく減少する予想を立てているが、前年度に比べ資金的に協会の運営も少し落ち着いてきたのと、公益法人として公益事業により力を入れることができる運営状態に落ち着いてきたという事情を説明した。なお、平成27年度は資金調達及び設備投資の見込みについては予定がないことを説明した。

同議案説明に対して、次の質疑応答があった。

(石川理事) 先ほどの説明の中に事業収益のことが述べられたが昨年と比べて固めに見たと考えてよろしいか。

(石川業務執行理事) 去年に比べて落ち込むという見方ではなく、今期の実績も勘案して組んでいる。

(石川理事) あまり去年と変わらないという見方だということがわかった。

(高橋代表理事) 平成26年度と比べて、受託額は変わらないとみているが、新しい分野の調査は受託できているのか。

(石川業務執行理事) 総額は変わらない、調査の分野も大きく変わらないが、個々の分野の中の細かい内容については年度によって若干の変化はある。

(飯塚理事) 先ほど費用の説明の中で、人件費が増えたと説明があったが具体的にどのような年齢層、人数が入社したのか。

(事務局) 去年の4月から今年の4月にかけて、技術を中心とした5人が入社している。これまで、協会は20代の技術職員がいないという状況に数年間あったが、公益社団法人として若手を育成していくという目標もあるため、実際に採用活動に力を入れてきた。

(石川業務執行理事) 時期は少しずつずれてはいるが、技術系や企画系で

5名の増員を図っている。入社の内訳は、5名のうち30代半ばが1人、30歳前後が2人、20代の新卒及び新卒相当の人が2人である。

(高橋代表理事) 新入職員も今は順調に実際のプロジェクトに携わっている。

(石川業務執行理事) 交通計画研究所も活性化してきており、管理職も事業や新人をまとめて協会の業績を上げていくという意識改革が見て取れる。

(川畑理事) 今回説明があった平成27年度収支予算書では、公益法人としての財務条件はクリアできているのか。

(事務局) 公益事業1～4まで、全ての事業で赤字となっており、公益目的事業比率も50%を超えている。

(高橋代表理事) 普段の協会職員を見ていると、収益事業に懸命に取り組んではいるが、公益目的事業もおろそかにせず両方のバランスを保ちながら業務を行っている。

(石川業務執行理事) 公益法人に移行した1年目は、私どもも手探りで様々なことを行ってきたが、特例民法法人時代の最後の決算の時に、非常に業績が悪化した状態になり、その状態で公益社団法人へと移行したので、慎重に運営し、前年度決算は全体として1千3百万円ほど黒字であった。今年度は研究事業を充実させ、組織の若返りを図ったことで、平成26年度決算の見込みとしては、公益法人としての理想的な活動が数字にも表れる決算になる予定である。この実績がこの予算にも勘案されているので、実態に近い予算になっているのではと考える。

議長は本議案につきこれを議場に諮ったところ、全員異議なく承認可決し、平成27年度収支予算書を承認した。

第3号議案 入社希望者に対する入社承認の件

議長は上記1議案につき説明を求めた。事務局は、別掲議案書により株式会社大同キャスティングス、三協立山株式会社より入社希望が提出

されていること、同社の会社概要、事業内容について説明をした。

株式会社大同キャスティングスはライトレール研究部会への加入も同時に希望しており、2社共ライトレール関係の調査研究業務で従来より交流があった旨を報告した。

同報告説明に対しての質疑応答は特になし。

議長は本議案につきこれを議場に諮ったところ、全員異議なく承認可決し、同社に対する入社を承認した。

報告事項として以下の議案について、報告を行った。

報告第1 職務執行報告

議長は上記議案につき報告をさせた。代表理事中田康弘は、別掲議案書により本年度の中間報告として、刊行物発行事業、講習会・シンポジウムの開催、海外調査研究事業、国際会議・催し物等開催協力、受託案件調査研究事業の実績についての報告を行った。

同議案説明に対して、次の質疑応答があった。

(高橋代表理事) 今期の受託調査研究事業の状況について、前年度と比べるとどうか。

(石川業務執行理事) 官公庁の会計年度に合わせて見てみると、件数としては1.17倍、金額では1.18倍の伸びで増えている。

(川畑理事) エssenシャル・セミナーが好評だとのことだが、40人程度というのと、協会の会議室だどどのように座ることになるのか。

(石川業務執行理事) 机なしで椅子だけで座ることになってしまったが、満席状態でセミナーを行うことができた。

(高橋代表理事) 講師の方との距離も近く、雰囲気よく開催されていたと感じる。議論もしやすい形態で行えた。

(飯塚理事) エssenシャル・セミナーの募集は、40人で打ち切ったのか。

(石川業務執行理事) 実際お断りすることはなかったが、その人数で落ち着いた。

(石川理事) 協会の社員企業以外に地方公共団体などへも声をかけたのか。

(石川業務執行理事) あまり遠方の自治体には来ていただくのが大変であるので声をかけなかったが、近郊の地方公共団体へは声もかけ、ホームページにも掲載したので、交通に関する研究を行っている社員以外の企業の方などからも問い合わせがあったり、応募があった。制限は設けずに募集をかけていた。

続いて業務執行理事石川雅康は、5月に一般社団法人及び一般財団に関する法律の一部が改正され、監事の権限強化、役員が法人に対して損害賠償責任を負う場合の最低責任限度額等の規定が変更となったことを報告した。これに関連し、役員が法人や第三者に対して損害賠償責任を負うリスクに備えて、財団法人公益法人協会が取りまとめる「役員賠償責任保険団体制度」への加入を提案した。

同報告と提案に対するの質疑応答は特になく、議長は本件につきこれを議場に諮ったところ、全員異議なく承認した。

その他の事項

議長は、今後の協会の業務内容等についての意見等を議場に諮ったが質疑応答は特になかった。

また事務局より、平成27年度第1回理事会を平成27年9月上旬に開催し、さらにその2週間後を目途に定時社員総会を開催したい旨を説明した。

理事・監事全員で協議したところ、平成27年度第1回理事会を平成27年9月3日(木)10時より、平成27年度定時社員総会を平成27年9月18日(金)16時30分よりそれぞれ開催することを決定した。

9. 閉会

以上をもって平成26年度第3回理事会の議事を終了したので、議長高橋洋二は、11時30分閉会を宣し解散した。

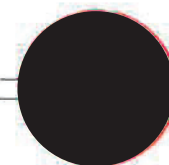
上記の議事を明確にするため本議事録を作成し、出席した代表理事及び
監事は下記に記名、押印する。

以 上

平成27年 6 月22日

公益社団法人 日本交通計画協会 平成26年度 第3回理事会

代表理事 高 橋 洋 二



代表理事 中 田 康 弘



監 事 曾 田 祐 司



本議事録の作成に関わる職務を行った者の氏名

業務執行理事 石川雅康

事務局副主幹 大溪はつみ